

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-73398

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

G 07 G 1/12  
G 06 F 15/21

識別記号

3 6 1

庁内整理番号

E-8610-3E  
Z-7230-5B

⑭ 公開 昭和63年(1988)4月2日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 特売商品取引方式

⑯ 特 願 昭61-217664

⑰ 出 願 昭61(1986)9月16日

⑱ 発 明 者 八 十 島 隆 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社  
内

⑲ 出 願 人 富士通株式会社 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

⑳ 復代理人 弁理士 田坂 善重

明 細 書

1 発明の名称

特 売 商 品 取 引 方 式

2 特許請求の範囲

商品の単品コードと個数を入力し、予め単品コードに対応する通常価格を格納する単品ファイルを検索し、合計価格を演算して商品取引を行なう商品取引端末において、

前記入力される単品コードに特売を識別する属性コードを付与するとともに、

特売時入力された商品コードの前記属性コードを検索する手段と、

特売時属性コードを付した商品の値引価格と販売制限個数を格納する特売ファイルと、

1顧客当りの特売商品の個数制限を監視する手段と、

を具え、前記制限個数に達した際、価格変更を示す出力を発生することを特徴とする特売商品取引方式。

( 1 )

3 発明の詳細な説明

( 概 要 )

本発明は商品取引端末で、日替りまたは期限付きで値引価格で取引する商品の特売を行なうため、単品コードに特売を示す属性コードを付し、単品コード検索時に同時にこの属性コードを検索して、特売商品の値引価格を格納した特売ファイルを用い取引を行なう。この場合、1顧客当りの特売商品の個数制限を監視し、これを超えた時アラームを発するかまたは通常価格に戻すように制御する。これにより不利益を生じることなく特売の目的を達成できる。

( 産業上の利用分野 )

本発明は商品取引端末における特売商品の取引方式に関するものである。

( 従来の技術 )

従来、スーパーマーケット等の商品取引端末では、商品に付されたバーコード等による単品コー

( 2 )

ドを入力し価格を集計する商品取引装置が用いられる。第3図はその1例を示す。すなわち、CPU 1からのバス7を介し全体が制御され、バーコードのような商品コードを読取る入力装置2と表示器(DPL)3を用いてオペレータが商品の単品コードを入力する。そしてメモリ4に記憶され、単品ファイル検索部5に渡されるとともに、他の処理装置にも送られる。

単品ファイル6には予め各単品コードに対応する通常価格が格納されており、入力商品コードに応じ読出される。

以上の構成は、在場商品に対する通常価格の場合の外、さらに予め特定顧客に対して設定された割引価格を含む場合もあるが、一般顧客に対する特売商品の場合には含まれない。

しかし、最近日替りまたは期限付きの特売商品が単なる臨時の値しとして推奨品を安価に販売するという目的だけでなく、他方には客集めという要素も含まれている。さらに特売は通常の販売策として重要性を増している。この場合、特売商

(3)

力される単品コードに特売を示す属性コードを付し、単品コード検索時にこの属性コードを検索して、特売商品であれば、その値引価格を格納した特売ファイルを用い取引を行なう。この場合、1顧客当りの特売商品の個数制限を監視し、この個数を越えた時アラームを発するかまたは通常価格に戻すように制御するものである。

#### (作 用)

上記構成により、商品の単品コードに特売を示す属性コードが検出されると、これが特売商品であることが判明し、対応する値引価格が特売ファイルから読出され、同一顧客への販売個数を順に計数し、計数値が制限個数を越えたときアラームを発するか、または通常価格に戻し取引を行なう。

#### (実施例)

第1図(a)~(c)は本発明の実施例の構成説明図であり、第2図はその要部の動作を示す流れ図である。

(5)

品の仕入れ個数や人気の度合いによつては、1顧客に対する販売個数を制限して、できるだけ多数の顧客に平等に販売することにより、常時の取引客数を増加しようとする図つている。

#### (発明が解決しようとする問題点)

スーパーマーケット等において、その店の日替りの特売商品とその販売制限個数につき、オペレータは毎日特売前に記憶し、1顧客の登録中にその特売商品を何個登録したかを注意しながら登録を行なわなければならない。このため、オペレータの精神的な疲労が増加し操作ミス発生の危険性が増大する。

本発明の目的は、日替りまたは期限付きで特売を行なうため、1顧客当りの特売商品の個数を自動的に制限するようにした特売商品取引方式を提供することにある。

#### (問題点を解決するための手段)

前記目的を達成するため、本発明によれば、入

(4)

同図(a)の構成図において、通常価格の場合は第3図と同様であり、特売価格に関連する構成が異なる。

まず入力された商品コードに特売を識別する属性コードを付する。単品ファイル6のフォーマットも同図(b)に示すように、各商品コードに対応して属性0, 1, 2等が指定される。属性0は通常商品であり、単品ファイル6から直接読出し登録される。属性1, 2等は特売商品を表わすものであり、かつその単品に対する特売ファイル内の情報格納位置を示すものである。特売前に予め特売ファイル12のそれぞれの指定位置に特売価格および販売制限個数が設定される。同図(c)は特売ファイル12のフォーマットを示し、販売制限個数、特売価格、通常価格、販売数量が設定される。このうち販売数量は特売時登録個数が加算され、登録終了後クリアされる。

以下、同図(a)の特売関連の構成に従い、第2図の流れ図を参照しつつ説明する。

入力装置2から入力された商品コードは一旦メ

(6)

メモリ4に記憶され、これが読出されて単品ファイル検索部5で単品ファイル6の検索が行なわれる。同図(b)に示した属性が0であれば第3図に示した通常価格による販売処理が行なわれる。

属性が1, 2等であると、特売ファイル検索部11で特売ファイル12の検索が行なわれる。そして、同図(c)に示した特売制限個数、販売価格、通常価格、販売数量を読出し表示、演算等の用に供する。次に顧客に対する販売個数を加算した結果、制限個数検出部13において、前記販売個数が制限個数を超えない限りは、販売個数は更新されその商品は特売価格で登録されるが、制限個数を超えた場合には、制限個数検出部13からの検出信号をアラーム発生部14に送りアラームを発生しオペレータに知らせる。

オペレータは顧客に対し、この商品は数量制限があることと、継続する場合は通常価格に戻ることとを告げる。この応答により、販売を中止する場合と、販売を継続し販売個数を更新して超過分は通常価格で登録する場合とに分れる。

(7)

## 〔発明の効果〕

以上説明したように、本発明によれば、1顧客当りの販売個数に制限を設けた特売商品に対し、この制限個数を超えて販売されようとした時、自動的にオペレータに注意を促がし、顧客の承認を得て超過分を通常価格で販売するか、販売を取り止めるかを決定できるので、オペレータの登録業務の軽減に役立ち、かつオペレータのミスによる顧客との間のトラブルや店の不利益等を未然に防止することができる。

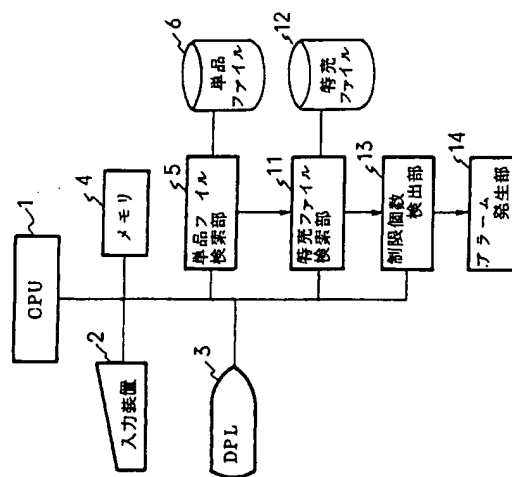
## 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の実施例の構成説明図、第2図は実施例の要部の動作を示す流れ図、第3図は従来例の構成説明図であり、図中1はCPU、2は入力装置、3は表示器、4はメモリ、5は単品ファイル検索部、6は単品ファイル、11は特売ファイル検索部、12は特売ファイル、13は制限個数検出部、14はアラーム発生部を示す。

特許出願人 富士通株式会社

復代理人 弁理士 田坂 善重

(8)



(a) 構成図

販売制限個数	特売価格	通常価格	販売数量
2	850	950	0
2	780	900	0

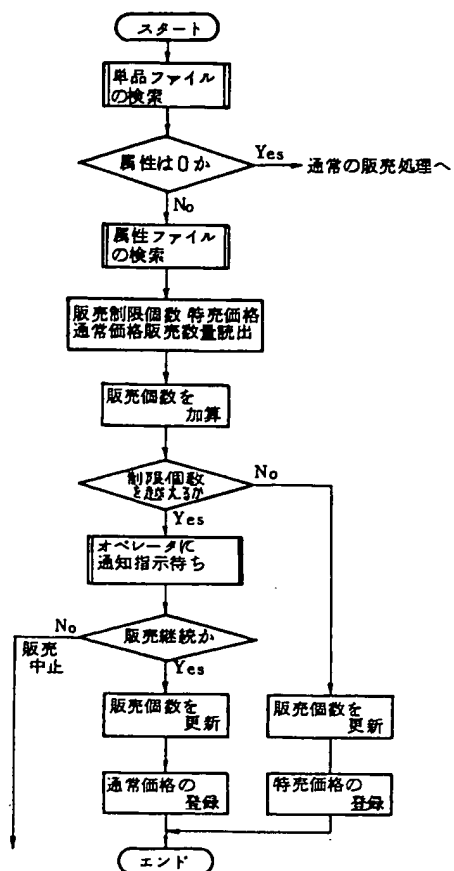
(c) 特売ファイル

商品コード	属性
4901655 410007	0
4902201 031066	1
4902882 035247	0
4902201 030649	2

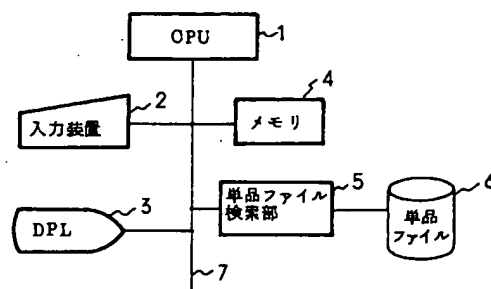
(b) 単品ファイル

本発明の実施例の構成説明図

第 1 図



実施例の要部の動作を示す流れ図  
第 2 図



従来例の構成説明図  
第 3 図